

## 第14回大阪府地方独立行政法人評価委員会 議事要旨

- 1 日時 平成19年8月31日（金） 午前10時40分～11時30分
- 2 場所 大阪キャッスルホテル6階「鳳凰」
- 3 出席委員 奥林委員長、辻本委員、服部委員、松澤委員、宮嶋委員、山谷委員  
(永田委員、中島委員は欠席)
- 4 議題
  - (1) 公立大学法人大阪府立大学の平成18事業年度の業務実績に関する評価について
  - (2) 地方独立行政法人大阪府立病院機構の平成18事業年度の業務実績に関する評価について
  - (3) その他
- 5 議事概要
  - 開会
  - <審議内容等の確認>

開会にあたり、委員長から、先に開催された大学部会、病院部会における審議の経過と本評価委員会における審議・決定の内容等について確認があった。
  - 議事
    - (1) 公立大学法人大阪府立大学の平成18事業年度の業務実績に関する評価について
  - <大学部会における審議の報告>

資料9「評価委員会及び各部会における審議の経過について」により、大学部会における審議経過とその結果について、事務局から次のとおり報告があった。

    - ・ 業務実績の年度評価について、第4回部会では、業務実績報告の概要説明の後、事務局で整理した論点を中心に委員会評価について、第5回部会では、評価結果のたたき台をもとに、評価結果、コメント等について、ご審議いただいた。その後、部会でのご意見等をもとに、部会長の了解を得た上で評価結果（素案）を取りまとめ、8月20日に府立大学へ提示し、意見照会を行った。これに対し、府立大学からは8月23日付で、特に意見はない旨の回答があった。
    - ・ 財務諸表及び利益処分の知事承認に関する意見については、第13回評価委員会において、その決定の権限が部会に委任されており、第5回部会で評価委員会の意見についてご審議いただいた。その結果、意見がない旨の意見書をご決定いただき、資料10のとおり、7月30日付けで知事に提出した。
  - <年度評価の決定>

委員長が、資料2「平成18事業年度の業務実績に関する評価結果」及び資料3「平成18事業年度の業務実績に関する評価結果<参考資料>小項目評価」と併せ、法人に対する評価結果の通知文、知事に対する評価結果の報告文の決定について、一括して諮ることとした。

事務局が通知及び報告の文案を配布し、読み上げた後、委員長が各委員に対して、異議がないことを確認した上で、評価結果、通知文及び報告文とも案のとおり決定することとした。

これを受け、委員長が事務局に対し、本評価結果の法人への通知、知事への報告及び公表について、所定の手続をとるよう指示した。

## (2) 地方独立行政法人大阪府立病院機構の平成18事業年度の業務実績に関する評価について

### <病院部会における審議の報告>

資料9「評価委員会及び各部会における審議の経過について」により、病院部会における審議の経過とその結果について、事務局から次のとおり報告があった。

- ・ 業務実績の年度評価について、第4回部会では、業務実績報告の概要説明の後、主に自己評価の項目で評価をすべきものがあるかどうかを中心に、第5回部会では、評価結果のたたき台をもとに、ご審議いただいた。その後、部会でのご意見等をもとに、部会長の了解を得た上で評価結果の素案を取りまとめ、府立病院機構へ提示し、意見照会を行った上で、先の第6回部会で案を決定いただいた。
- ・ なお、8月8日に精神医療センターの視察を実施した。
- ・ 財務諸表の知事承認に関する意見について、第5回部会で決定いただき、資料10裏面のとおり、8月20日付で知事に意見書を提出した。

### <年度評価の決定>

委員長が、資料6「平成18事業年度の業務実績に関する評価結果」及び資料7「平成18事業年度の業務実績に関する評価結果<参考資料>小項目評価」と併せ、法人に対する評価結果の通知文、知事に対する評価結果の報告文の決定について、一括して諮ることとした。

事務局が通知及び報告の文案を配布し、読み上げた後、委員長が各委員に対して、異議がないことを確認した上で、評価結果、通知文及び報告文とも案のとおり決定することとした。

これを受け、委員長が事務局に対し、本評価結果の法人への通知、知事への報告及び公表について、所定の手続をとるよう指示した。

## (3) その他

昨年度の業務実績の評価結果が決定されたことを受け、府立大学理事長及び府立病院機構副理事長から、次のとおりコメントがあった。

### <府立大学>

- ・ 委員の皆様方、特に大学部会の委員の方々には、当法人の評価に当たってさまざまな観点からご審議をいただき、誠にありがとうございました。本日、年度計画及び中期計画のとおりに進捗しているという評価とともに、教員が意欲的に教育研究に取り組むという仕掛け、研究環境の整備に積極的に取り組んでいるということについて評価をいただき、大変うれしく思っている。

今後、一層の飛躍に向け、大学本来の基本使命である教育研究の一層の向上、改革ということに取り組んでまいりたい。少子化の中で、大学間競争が非常に激しく

なっているが、教育研究の実質的な面で一層の成果を上げ、世界に通用する高度研究型人才の育成、すぐれた研究成果の創出、その研究成果の地域社会への還元、さらに社会貢献といった点で、今後とも法人の使命を果たしていく所存である。委員の先生方には、なお一層のご支援、ご協力をお願いしたい。

#### <府立病院機構>

- ・ 評価委員の皆様方には、ご多忙の中、先日は精神医療センターのご視察と貴重なアドバイスをいただき、本当にありがとうございます。18年度の実績については、各委員から、今後の病院が取り組むべき戦略的な方向まで含め、データに基づいたご助言、評価をいただき、深く感謝を申し上げたい。

18年度は初年度ということもあり、法人化後の5病院が一丸となった取組みと、各病院の主体的、積極的な取組みが、今回の評価につながったものと謙虚に受け止めている。法人化による病院改革を本当に成功させるためには、2年目、3年目へと着実に発展させていくことが大切であり、初年度において進めてきた医療面、経営面における取組みを土台として、より一層の充実を図ってまいりたい。

医療を取り巻く環境は、日々厳しくなっている、今後、評価委員の皆様からいただいた貴重なご意見等を踏まえ、患者の目線に立って、高度専門医療や患者・府民サービスの充実に一層取り組んでまいりたい。また、マグネットホスピタルを目指して頑張っていきたいので、今後のご指導をお願いしたい。

事務局の副理事兼行政改革課長から、今後のスケジュール説明を含め、挨拶があった。

- ・ 委員長をはじめ各委員の皆様には、18年度の年度評価につきご苦労さまでした。短時間での評価で、かつ事務局として至らない点もあったかもしれないが、委員の皆様、両法人の理事長はじめ役職員、担当者の皆様にも多大なご尽力をいただき、誠にありがとうございました。

本日の議論の中で、評価の簡素化と府民へのアカウンタビリティーの視点について、ご指摘いただいた。評価の簡素化については、私どもも日頃の作業をやりながら感じているところなので、法人と相談させていただき、来年度に向かって整理していきたい。アカウンタビリティーの問題については、常に我々が心がけていかなければいけない点であり、できるだけ取り組めるようにしていきたい。

今後も、評価のための評価ではなく、改革のエンジンとなり、府民の理解をいただいて、それを法人のステップアップにつなげるという評価を目指したいと思っているので、今後ともご理解、ご協力をお願いしたい。

なお、年度評価の作業は本日をもって終了するが、年度内は、例えば病院機構の短期借入金の借換えや中期計画の変更等、必要が生じた場合には、委員会又は部会を開催させていただくことになるので、よろしくをお願いしたい。

#### 閉会

閉会に当たって、委員長から次のコメントがあった。

- ・ 病院については初年度の、大学については2年度の評価を終了することができた。しかも、年度計画及び中期計画ともに計画どおり進捗しているという評価となった。

地方独立行政法人の変革あるいは定着については、他の事例が少ない中で、このように計画どおり進捗していることは、非常に大きな成果だと思う。こうした成果は、各法人の理事会とその事務局をはじめ関係者の大きな努力の結果であり、敬意を表したい。また、この評価報告書の作成に当たり、事務局にも大変ご尽力をいただき、お礼申し上げたい。

独立行政法人の意義、評価委員会の意義とはどういうものなのか、私の意見をまとめたものを「都市問題研究」に載せさせていただいた。法人や行政による府民サービスの改革をいかに進めていくかということが、評価委員会の最も大きな役割であろうと思っている。行政、法人、評価委員会がその目標に向かってそれぞれの役割を果たすと同時に、3つの組織の相互信頼関係があって、改革が成り立つ。そのためには、相互に徹底的な意見交換を行い、現場を見せていただき、単なる字面や数値的な成果だけではなく、現場も踏まえた評価をやっていきたい。今後とも、この3者の関係、相互作用をうまく展開することによって、府民サービスの質の向上と効率的運営に貢献していきたいと考えている。

大学は、法人化して既に3年目に入っており、具体的にその成果が出てきている。法人化により組織は変えたが、具体的な中身をどうするか、どういう成果を出すかということが、これから問われるのではないかと思う。今後は教育研究面において、実質的にレベルアップしたということが成果として出てくるよう、ぜひご尽力いただきたい。

病院については、初年度で、しかも5つの病院を1つの法人とする大きな組織改革があった。組織改革は文化の衝突があるので、非常に難しいと思うが、それを今回非常にうまく処理していただいたと思う。ただ、病院の経営を見ると、医療収入をこれからどう上げていくかが課題だと思う。医療収入を上げながら、医療サービスの質的向上に努力していただきたい。

同時に、組織改革は、そこで働く人たちもハッピーにならなければいけないというのがこの委員会の視点である。新しい大学組織に移った教職員や学生が、そこで働くことに大いに意義を感じ、楽しく働き、学べる。病院も、医者、看護師をはじめとした職員や患者が、ハッピーに働け、治療を受けられるという雰囲気が出てくるよう、ご尽力をお願いしたいと思う。

最後に評価委員会の運営に関して、次のとおり、委員から意見があり、事務局から回答（ ）で表示した。

- ・ 会議の会場としてホテルを使うことが、一府民として、もったいないと思う。府庁の中に、適当なスペースがあるのかないのか、よく分からないが、事務局でお考えいただきたいと思う。

事務局としてもできるだけ安価な会場を使いたいとは考えているが、府庁内の会議室は、取り合いになっているのが現状である。ただし、趣旨は大変よく分かるので、ご意見は、今後も心得させていただきたい。

以上